# 事和人人代表》



中でみんなの手が繋がった~☆

- 夏の研修報告
- 特集「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達(その3)」 遠藤 利彦
- 特集「子どものできた!を支える「見る力」」 桐生 大輔
- コミュニティ(保育の窓)
- もの想い(認定こども園東海大学付属静岡翔洋幼稚園/藤枝聖母幼稚園)
- 少子化を我が園の事として考える 安岡 知子
- ナイスショット&編集後記



NO.193 2021**⑫** Winter

## 夏の研修報告

新型コロナウイルス感染拡大の中、夏の研修会は、

- 「1 受講者が安全に安心して受講できる」
- 「2 受講者数をできるだけ制限しない」
- 「3 研修の質を担保する」の方針のもと実施計画が検討され、
- 多くの研修が動画配信により実施されました。



#### 初任者研修会(第3回)

#### 〈8月11日(水)、動画配信による研修〉

『素晴らしい保育者を目指して』というテーマのもと、本年度採用された新任教諭 204 名が研修に参加しました。 講義1は、常葉大学准教授の木山幹恵先生による『幼稚園 教諭に求められる安全への視点と責任』、講義2は、大阪 総合保育大学学長の大方美香先生による『幼児理解につい て』でした。参加したアソカ学園追分幼稚園の石川捺美先 生に受講した感想を聞いてみました。



石川 捺美 先生

講義1では、普段の園生活にも多くの危険があり、保育者が意識していなければならないことを学びました。起こりやすい事例と共にケガや事故をただ恐れるのではなく、予測し対処法を知っておくことで重大事故を防ぐことが大切であり、保育者とし

ての義務であるということも学ばせていただきました。

講義2では、砂遊びの事例を時系列で子どもの姿を 追って捉えていくことで、同じような遊びをしていて も違ったことを感じていると学びました。行動で表れ る子どもの姿だけではなく、様子や状況を深くみて関 わることで内面にも寄り添って捉えていくことが大切 だと知ることができました。

#### 初任者研修会(第4回)

#### 〈8月23日 (月)、動画配信による研修〉

講義1は『気になる子について~保育者に求められる理解と支援~』でした。保育者が何らかの特別な支援が必要だと認識している子ども、すなわち「気になる子」にどう支援すればよいのか具体的に支援のポイントが説明されました。

講義2は『保護者への接し方~敬語のマナーと使い方~』でした。保護者や子どもと話す機会が大変多い仕事なので初任者研修にとどめず、保育者に求められる接し方を園全体で研修してほしいと思いました。

参加したしらゆりこども園の二人の先生に話を聞いてみました。



恩田 侑子 先生

気になる子に対しての支援を改めて深く学ぶことができました。その子のリスクに合わせて支援するには、その子自身の問題をよく知って声をかけるだけでなく環境の工夫も大切だと思いました。



日常で気をつけなければならないことを再確認することができました。保護者の方と会話する際の敬語や、目上の方に対する敬語、電話対応する際の注意点などです。研修で学んだことを今後の保育に取り入れたり、活かしたりすることができる

渡辺 あかり 先生 たり、活かしたりすることができるよう日々精進していきたいと思います。

#### 主任教員研修

#### 〈7月26日(月)、動画配信による研修〉

講義1は、『1. 就学支援の流れにつなげる取り組み 2. ネグレクトのケースについて、心理的理解と対応について』と題し、臨床心理士・公認会計士の伊藤千裕先生から御講演をいただきました。園内外の集団守秘やチーム体制で守りを固めつつ、課題に取り組むという視点から就学支援と虐待対応についての講義が行われました。

講義2は、『子どもの姿に基づく保育の実践と評価~カリキュラム・マネジメント』と題し、神戸大学大学院准教授北野幸子先生から御講演をいただきました。世界の教育・保育の動向や、SDGs、教育振興基本計画における保育者の役割について、また、自己評価を含めた評価の概要、保育者の自己発揮の重要性について講義が行われました。

参加者からは、「従来の対面の講習に比べ、一方的に聴講するのみの講習は、慣れないこともあり疲れた」「従来の研修と違い移動等もなく、その日の好きな時間に講習を受けることができ、一日の時間を有意義に使うことができた」「聞き逃したことや、注意深く聞きたい箇所を、巻き戻して聞き直すことができることは、配信での講習の大きなメリットだった」などの感想がありました。

#### 乳幼児教育研修

#### 〈8月2日(月)、動画配信による研修〉



講義1では、太田雅子先生(聖隷クリストファー大学教授)の『3歳未満児の豊かな育ちを保障する保育とは』講義2では瀧薫先生(社会福祉法人子どものアトリエ 理事長、大阪芸術大学短期大学部講師)の『乳幼児で大切にしたいこと ~一人一人を大切にする保育~』を受講しました。

乳幼児の発達段階についての理解を深め、それぞれの時期において、子どもたちが発達課題を達成するためには、どのような環境や援助が必要か、乳幼児の発達理論に基づいて学びました。受講者からは、次のような声が聞かれました。

(講義1)子どもたちが意欲や達成感をもてるようにするために、発達段階にあわせて声を掛けたり、自分で考え、見通しをもてるように、様々な経験を提供し、様々なものや、素材を用意し、自分なりにイメージして遊べるように援助をしていくことが大切だとわかりました。ワークが組み込まれていて楽しく学べました。

(講義 2) 基本的な 3 つの視点や 5 領域、10 の姿を交えながら、日々の実践でどの要素が取り入れられているかの解説があり、どのような姿・保育が何を育てているのか論理的に理解することができました。

#### 教員研究講座

#### 〈8月3日(火、動画配信による研修〉

講義1では『少子化時代における子ども・家庭支援を考える』と題して静岡大学教授 冬木春子先生が、講義2では『今日から明日へつながる保育-教材を工夫する・環境を考える-』と題し、共立女子大学教授 田代幸代先生のお話を聴講しました。

講義1の中で、親の就労の有無によって生活習慣に差があることを示すグラフを紹介されました。共働き世帯では夕食の時間が必然的に遅くなり、子どもの就寝時間も遅くなりがちです。遅い時間に寝る子ども程、朝は起きられなくなり、朝ごはんを充分に摂ることも難しくなります。「幼児期は子どもの食習慣の基礎が確立する時期」であり、子どもに相応しい生活習慣を築いていく重要性をお話しされました。

講義2の環境設定について、子どもの興味・関心に沿った教材準備をすることの大切さを事例を交えて紹介されました。子どもの理解度が深まるかどうかは用意する教材の細やかな配慮が為されているかや保育者の誘導が鍵であると提言されました。

#### 特別支援教育研修

#### 〈8月5日(木)、動画配信による研修〉

常葉大学の准教授であり、NP 〇法人クローバー自立センターの 野藤弘幸先生による『愛着形成から見た発達障害の子どもたちへの 具体的対応』と題して講演が行われました。



先生は、長い間作業療法士として発達障害の子どもたち と多く関わってきた経験をもち、話は具体的な事例も多く、 とてもわかりやすいものでした。私たちの園に通う園児た ちの中には、自閉症であったり、診断はなくとも愛着行動 の強い子どもは多いです。その子が持って生まれた体の感 受性にもかかわらず、理解しようとしても理解できなく て、私たちはついつい「なぜそうなるのか」問い詰めてし まうこともしばしばです。参加者の一人は「自分の行動や 言いたいことをうまく説明できない子どもに『自分がくや しかったからしちゃったんだね』と、その子の気持ちを拾 うことに主眼をおいて接することや、愛着がその子にとっ てどんなに大切か、愛着を認め育てて、一人ひとりの見立 てのもとに対処することが大切であることを学んだ」と言 う感想を話してくれました。教師である私たちが柔軟に子 どもを理解する姿勢が、いかに大事であるかをあらためて 学んだ研修でした。

#### 第33回教育研究大会

#### 〈8月10日(火)、グランシップほか〉

コロナ禍のため、会場参加人数を制限し、各園からライブ配信を視聴するハイブリッド式で開催され、参加者はリモートを含め 239 名でした。式典では、千葉理事長の挨拶の後、永年勤続教職員表彰が行われました。受賞者の代表4名が表彰され、島田北幼稚園 大石晃子先生が受賞者代表謝辞を述べられました。記念講演では、「保育の振り返りと評価」と題して東京大学大学院特任准教授 淀川裕美氏にご講演いただきました。保育の振り返りについて改めて考えさせられ、また対話についての本質を知り、職員間でグッドサイクルをつくる対話的な関係性を築く大切さを教えていただきました。そして保育とは正解や解決策を求めるのではなく、子どもの潜在可能性や活動が展開していくプロセスを味わい楽しむことだと、明日からの保育がさらに楽しみになり、ワクワクする講演となり、無事教育研究大会を終えました。

#### 夏の研修を終えて

現状のコロナ禍において、教職員の皆さんも新しい形の 研修方法に慣れ、前向きに学ぶ意欲が感じられました。反 面、対面研修の良さも改めて意識することができたのでは ないでしょうか。アフターコロナを見据え、リモート研修 と対面研修の双方の良さを生かした研修体制への期待の高 まりを感じました。

### 乳幼児期におけるアタッチメントと 非認知的な心の発達

-安全な避難所における感情の立て直しと映し出し-



東京大学大学院教育学研究科教授 同附属発達保育実践政策学センター長

#### 遠藤 利彦

1962 年山形県生まれ 東京大学教育学部卒業 東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学 博士(心理学) 東京大学教育学部助手、聖心女子大学文学部専任講師、 九州大学大学院人間環境学研究院助教授、京都大学大学院教育学研究科准教授、 東京大学大学院教育学研究科准教授を経て、現職 専門領域は発達心理学・感情心理学・進化心理学など 日本赤ちゃん学会理事・日本子ども学会理事・日本学術会議第 25 期会員など



この連載の第1回目で、アタッチメント理論の創始者で あるジョン・ボウルビィが、親や保育者などの大人は、子 どもにとって「安全な避難所」と「安心の基地」としてあ るべきだと主張していたということについて触れました。 子どもは何か活動や遊びの最中に、怖くて不安なことが生 じた際には、避難所である信頼できる大人のもとに駆け込 みます。そして、そこで慰められ安心感に浸ることができ ると、今度はその同じ人を基地にして元気よくそこから飛 び出して、また好奇心に駆られて探索や冒険に夢中になる のです。子どもの日常は、まさにこうしたことの繰り返し であり、これがいかに自然に安定して経験できているか否 かということが、子どもの健やかな心の発達の鍵になるの だとボウルビィは考えたのです。今回は、特に「安全な避 難所 | の働きに関して、もう少し深掘りして考えてみたい と思います。それが、どのような意味で、非認知と呼ばれ る力の中でもとりわけどのような心の要素を育むことにつ ながるかについて考察してみましょう。

第1回目に述べたように、子どもは自分自身が怖くて不安で仕方がない時に、そしてぎゃーっと泣き声を上げた際に、周囲の大人から無条件的に受け容れてもらい、慰められ、崩れた感情を元通りに立て直してもらう中で、「人って信じていいんだ」という感覚や「自分ってちゃんと愛してもらえるんだ」という確信を持つことができるようになると言えます。そして、こうした確信は、言ってみれば「どんなにどうしようもない状態にあっても、決して見捨てられずに大事にしてもらえるということは、他の人にとっ

て自分がとても大切な存在なのだ、そして自分には他の人から大切にしてもらえるだけの価値があるのだ」という自分に対する最も根っこの部分での自信、あるいは自分のことが好きで自分のことを愛せる感覚、つまりは自己肯定感や自尊心にそのままつながっていくと考えることができます。

また、幼少期に怖くて不安な時にちゃんとくっついて、その度ごとに安心感に浸ることができている子どもは、上で述べたような自分や他者への基本的信頼感に支えられて、何かあった際には、自分が確実に護ってもらえるのだという高度な見通しを持つことができるようになります。「何かあったら、あそこに行けばいい」「何か怖いことがあったら、あの人に向けてぎゃっ一て泣けば、必ずあの人は自分のところにすぐに来てくれるはず」、こうした見通しが一旦、子どもの中に確かな形で成り立つようになると、子どもはその見通しに支えられて、自発的な探索や冒険を積極的に行うことができるようになり、自分の世界を、そしてまた自分の可能性をどんどんと拡げていくことが可能になるのです。

小さい子どもは、ある意味、好奇心の塊と言うことができます。しかし、その一方で、恐怖と不安の塊でもあります。「まだ行ったことのないあそこに行きたい、でも暗い、もしかしたらオバケいるかも知れない、オバケいたらどうしよう、すごく怖い、行けない・・・」、このように、幼い子どもの心は好奇心と恐怖・不安の間で絶えず揺れ動いているのだと考えることができます。しかし、そうした状

況で、その高度な見通し、例えば「オバケ怖いけど、オバケいたらいたで、その時にぎゃーって大声で泣けば、絶対にあの人、すぐに自分のところに飛んできて助けてくれるはず」という予測のもと、子どもは「だったら行っちゃえ」と勇気を振り絞って、それまで怖くて不安でできなかったものにも、果敢にチャレンジできるようになるのです。そして、結果的に徐々に「一人でいられる能力」、すなわち自律性を獲得できるようになっていくのです。

もっとも、こうした自分や他者への基本的信頼、そして 「一人でいられる能力」や自律性は、子どもは恐怖や不安 などの直中にあって、感情が崩れた時に、その崩れた感情 をしっかりと立て直してもらう中で、子どもが得るものだ と考えることができます。しかし、「安全な避難所」の役 割は、どうもこれだけではないようです。この他にもう一 つ、とても大切な働きがあるということが様々な研究の中 で明らかになってきています。アタッチメントの働きの中 でもう一つ着目すべきものは、それが子どもの感情に対す る寄り添い、別の言葉で言えば共感・同調および映し出し を通して、心の理解能力や共感性の力の発達に寄与してい る可能性があるということです。近年、とみに注目される ようになってきていることに、子どもが恐怖や不安などの 感情を強く示しながら近づいてきた時に、親や保育者など の大人は、その崩れた感情をただ慰め立て直すだけではな く、多くの場合、自分自身が「鏡」となって、子どもの心 の状態に共感・同調し、映し出す役割を果たしているので はないかということがあります。

例えば、子どもが何かに躓いて転ぶなどして、痛みを抱え大泣きしている状況で、その近くにいる大人は、そうした子どもの様子を見た瞬間、しばしば、一瞬、無意識の裡にその子どもの痛そうな表情を自らの顔に浮かべてしまっていることがあるのではないでしょうか。つまり、大人は、子どもの感情が崩れた時に、その崩れた感情をただ立て直してあげるだけではなく、それに一瞬、先立って子どもの心や身体の状態に共感・同調し、つい似たような顔の表情や声の調子になる中で、それを子どもに対して映し出してあげているのです。痛みの表情を自ら顔に浮かべている子どもが、対面している大人の顔に痛みの表情を見るとすれば、それはまさに、自分の痛みの表情を大人の顔という「鏡」の中に見ているのと同じということになります。

元々、発達心理学の領域では、周囲の大人によるこうした子どもの感情の映し出し、そして多くの場合、それとほぼ同時になされる感情に対する言及、ラベリングが、子どもが自分自身の心や身体の状態を理解する上で、とても大切な働きをしているのではないかと言われてきました。実のところ、痛そうな表情を浮かべている子どもに自ら痛そうな表情をもって反応する際に、かなりの確率で、大人は、ほぼそれと同じタイミングで、あるいはそれよりちょっと

遅れて、「あーっ、痛かったね」などと言葉を発している のではないでしょうか。これが感情のラベリングにあたり ます。

現に悲しい状態の直中にあることと、これが悲しいとい うことなのだと知ることは全く別のことです。また身体全 体が疲れて何かいつもと異なる状態にあることと、これが だるいということなのだと知ることは全く違うことです。 子どもは、この世に生を受けた段階から、快不快、実にい ろいろな心や身体の状態を経験しているはずですが、それ ぞれがどういう状態なのかを、最初から、自分自身の力で 理解することはできません。子どもが自分自身の心や身体 の状態を自覚して理解することができるようになるために は、周囲の大人が、その状態を察知して、それに対して、 「悲しい」「だるい」といった的確な言葉をうまく貼り付け てあげることが必要なのです。そして、こうした働きかけ のもとで、子どもは、言ってみれば「今のこういう状況に ある時の、この心や身体の中の独特の感じ、感覚、こうい うのが悲しいって言うんだ、だるいって言うんだ」といっ た形で、徐々に少しずつ、自分の心や身体の状態を自覚的 に適切に理解できるようになっていくのです。また、こう した形で、自分の心や身体の状態を理解し始めた子どもは、 今度は、自分が経験したことがあるのと同じような状態に ある他の人の様子を目にした時に、例えば「~ちゃん、一 人でいて、悲しそう」などと、そこに自分が既に知った言 葉を貼りつけながら他者の心や身体の状態も理解できるよ うになっていくと考えられるのです。

現に、乳幼児期に子どもが近しい大人との間で、自身の心や身体の状態に関連した言葉かけをいかに豊かに経験してきているかということと、その後の子どもの心の理解能力の発達にはかなり明確な関連性があるということが明らかになっています。このように、「安全な避難所」に戻った際に信頼できる大人から感情の映し出しやラベリングをしてもらうことは、子どもが自分や他者の心の状態を適切に理解し、また共感性や思いやりを準備していく上できわめて重要な役割を担っている可能性があると考えられます。

おそらく、感情の立て直しにしても映し出しにしても、 保育者は意図して子どもに対してやってあげているという ものでは必ずしもなく、むしろ、多くの場合、無意識の裡 に自然にやってしまっているという性質のものかも知れま せん。しかし、この言ってみれば何気ない当たり前の働き かけを周囲の大人から繰り返し受ける中で、子どもは実に 大切な、非認知と呼ばれる心の力の中でもとりわけ中核的 な要素を、徐々に身につけていくことになるのだというこ とを、ここで確認しておいていただければと切に願うもの です。

4



私たちは、生活の中で常に情報を集める必要があります。そして、その情報を分析したり、理解することで、その場で必要な行動をしています。そこで、特に重要になるのが「見る」という働きです。何を当たり前のことを言っているの?と思われるかもしれませんが、人間は、外界の情報の約80%を"視覚"に頼っています。この「見る」ことは、普段は自動的にされています。そのため、「見る」ことになんらかの問題があっても周囲には気づかれにくく、また、他人と比較する機会がないために、学齢期になって読み書きや生活スキル習得の困難が生じてから、やっと周囲に気づかれることも少なくありません。

これから3回にわたって、「子どものできた!を支える 『見る力』と題して、子どもの視覚機能についての説明、 また、子どもの視覚発達を促す活動などをご紹介させてい ただきます。

#### 1 「見る力」とは?

私たちの生活は、次々にやるべきことが提示されていきます。常に問題解決をしてその状況に適応しているとも言

えます。たとえば、テレビを見ている時に、「チャンネルを変えたいな」と思った時には、リモコンを探すでしょう。「リモコンが見えた」では、目的が達成されません。リモコンがどこにあるのか、どれだけの距離があるのか。それは、手を伸ばせば取れるのか、移動しないと取れないのか判断する必要があります。そして、実際にリモコンを取るために手足を動かすといった具合です。

「見る」ことと関連深い機能として、「視力」があります。 視力とは、物体の存在や形状をはっきり見ることや、細か く見分ける能力です。しかし、「見る」こととは、視力だ けでなく、さまざまな機能によって支えられています。た とえば、

#### ① 飛んでくるボールをキャッチする。

向かってくるボールの動きを両眼で見る。ボールの軌道 に沿って、両眼を内側に寄せて見続ける。このように、両 眼で見ることで立体視が働き、奥行きや距離感の認識が得 られます。ボールを怖がる子は、こうした難しさがあるの かもしれません。

② 本の文字を読む。

本を読むためには、自分から 30 ~ 40cm 離れた近い位置の文字に焦点を合わせなければなりません。左から右、上から下へと文字や単語に忙しく眼球を動かします。時に挿絵に眼を向けては文字に視線を戻す。その時には、見ていた場所を記憶しておかなければなりません。

#### ③ 折り紙を折る。

制作活動で先生のやり方を見ながら、手元の折り紙を折る。先生の説明を見ながら、今度は自分の手元を見る際には、すばやく視線を移動させます。遠くから近くを見た時には、すばやくピント合わせをします。

#### ④ 右や左など、方向感覚をつかむ。

「あっち、こっち」の理解や、道順を覚えるなど、自分を取り巻く空間と自分との位置など、位置関係の認識は非常に重要です。移動や物の操作には位置関係の推測など高次な機能が働きます。見ることと身体的イメージや運動機能がお互いに連動し合うことが必要になります。

#### ⑤ 見本の記号や絵を真似て描く。

見本の形を、用紙の背景と形を区別します。見本の形全体を捉え、今度はどんな線で構成されているのか部分で捉えます。記憶した映像を、用紙のどこに描き込むかイメージして、鉛筆を持った手をイメージに沿って走らせます。

このように、脳は、見たものを理解し、目的に沿った行動をするために、さまざまな視覚機能をお互いに連動させて「見る力」を発揮します。

「見る力」は、乳幼児期からものに触れ、身体を動かしながら環境とかかわりあい、周囲のサポートを得ながら日常生活動作やさまざまな遊びの中から習得されます。知らぬ間に、当たり前に身につくものではありません。視覚に関連する機能や、運動機能などの問題によって、「見る力」につまずきが生じる、成長と共に生活上のさまざまな困難や、スキルの不足などがあらわれることがあります。

#### 2 子どものあらわれと「見る力」の関係

子どもは、見る力に問題があると、ボール遊びなど全身を使った遊びや、積木、ぬり絵などの手先の活動を嫌がることがあります。

#### よくつまずく

両眼がうまく使えていないために立体的に見る力が弱い。はっきりと見えている視野領域(中心視野)の外側視野を周辺視野といいますが、その視野が狭い。足下の段差や突起をすばやく眼球を動かして捉えられていない、など

の原因が考えられます。また、段差は見えていて足を上げるイメージはあるものの、粗大運動や協調運動(左足を上げて右足は地面を踏む)の問題で身体がうまく反応できていない、なども考えられます。

#### ●ボタンをはめる、靴ひもを結ぶのが苦手

ボタンを通す穴を認識して、そこに向かってボタンをつまんだ手を動かすといった機能を目と手の協応といいます。見たものに手の運動を連動させることに苦手があるかもしれません。ボタンの穴が2重に見える。視覚的中心と身体的中心が一致していない。効き目が定まっていない。または、立体的に見えないために手前、奥側の認識が難しいことなども考えられます。

#### 物や人にぶつかることが多い。

自分の手足の長さ、身体の厚みなどの身体イメージが弱いことなどが考えられます。また、相手との位置関係や距離の認識といった空間を認識する力や、周辺視野が狭いといった理由によるものかもしれません。

私たちは生活の中で、常に状況に適応していくために、たくさんの視覚情報を取り入れます。そして、理解したり、記憶したり、予測を立てるなど情報処理をして、それをもとに、身体を正確に動かして行動しています。「見る力」に問題があると、上記のような困難や苦手が生じやすくなります。心理的な苦痛が強くなる、上手くいかないことが続くと、自己嫌悪、イライラ、自信が持てないといった二次的な問題も生じやすくなります。周囲もこうした問題には気づきにくいために、本人へのプレッシャーも強くなってしまいます。就学して教科学習が始まると、読み書きの問題や、文章読解の困難などがみられるようになることもあります。こうした「見る力」に問題がある子どもを、早期に発見してあげたいものです。

次回は、「見る力」が発揮されるために、どのような視 覚機能が備わっているのか、また、脳でどのような情報の 処理が行われているのか、ご紹介させていただきます。



#### 保育教諭になって

#### 認定こども園リーチェル幼稚園 遠藤 萌花

わからないことだらけで、とにかく必死に毎日を過ごしていた一年目が終わり、あっという間に二年目を迎えました。担任の先生として自分のクラスを持ち、保育ができることに日々喜びを感じています。また、たくさんの子どもたちから「もえかせんせい」と呼ばれるたびに嬉しく、先

生になったんだなと実感します。二年 目の現在も、一年目と変わらず、保育 することの難しさを感じるとともに、 先輩の先生方が、当たり前のように行っ ている日々の保育には、たくさんの工 夫や思いがたくさん詰まっていること を知り、そんな先輩方の保育を見て学 び、勉強する毎日です。一年目を終え 私が感じていることは、視野を広く持

ち、一人ひとりの子どもに寄り添うことの難しさです。よく耳にすることですが、いざ保育をしてみると、誰一人として同じ思いや、性格を持った子どもはいない中で、一人ひとりにあった保育をすることは難しく、どのような声掛

けをすればやる気が出たり、意欲を引き出せたりするのか、 声掛けの大切さを実感しています。また、同じ声掛けをし てもその子によって反応や感じ方が違うので、視野を広げ ながら子どもたちの良さや子どもの発見に気づき、伸ばし てあげられる保育教諭を目指していきたいと思います。今

> 年は、園生活最後の一年間を過ごす年 長児の担任です。年中だった時よりで きるようになったことも増え、子ども たちの成長を間近で見て、感じること ができ、保育教諭は改めて素敵な仕事 だなと感じています。

> 失敗をしたり、自分の保育に納得がいかず、悩んだり落ち込むこともありますが、毎日元気いっぱいで、可愛い

笑顔をたくさん見せてくれる子どもたちに励まされ、頑張ることができています。そんな子どもたちに感謝の気持ちを忘れず、これからも子どもたちと一緒に成長していきたいと思います。



#### 幼稚園教諭2年目の想い

小川幼稚園 石田 恵理佳

『将来は、幼稚園の先生になろう!』と考えたのは、中学 二年生の時でした。

学校行事で職場体験をする機会があり、いろいろな職業がある中、幼稚園・保育園の体験を第一希望で提出しました。 二日間だけでしたが、子どもたちと楽しく遊んだり、制作の様子を見たりすることができて、とてもいい体験になりました。

体験の後、「気になる職業の人に質問をする」という課題があり、幼稚園教諭の経験がある託児所の先生にお話を伺いました。お話の中で印象に残っていることは、「一人ひとりの成長に十一人ひとりのちょっとした変化を見届け、成声をかけてあげることができると教えていただきました。お話を伺う中で、幼稚

園の先生は大変な仕事ではあるが、とてもやりがいのある 仕事だと感じました。

昨年、夢だった幼稚園の先生になり、年少のクラスを持つことになりました。子どもたちと会うことを楽しみにしていましたが、生活が始まってからは、自分の未熟さを痛感する毎日でした。どのように教えたら興味を持ちながら

活動ができるのか、どのように声掛けをしたら伝わるのか、などを考えることが多くありました。先輩先生方から、「活動では、伝えることはしっかり伝え、長くなりすぎないことが大切だ」とアドバイスを頂いたり、声掛けや接し方は良いと思ったところを真似したりしていくことで、子どもたちの反応や取り組む雰囲気が少しずつ変わってきました。

子どもたちが進級する時は、たくさん のことができるようになったなと感じ、 嬉しくなりました。

今年も年少の担任になりました。同じ学年だったことで、生活の流れが分かり、落ち着いた気持ちでスタートすることができました。しかし、同じ年少でも、昨年と今年では子どもの様子などがこんなにも違うのかと驚かれました。まだまだ伝えていくことがたくさんありますが、日々いろいろな表

情を見せてくれる子どもたちと楽しく生活を送っています。まだまだ保育者として学ぶことは多くありますが、子どもたちの笑顔がたくさん見られるクラスにしていきたいと思っています。そして、責任を持てる保育者になりたいと思います。



#### 天職だと思える仕事に出会って…

#### 四恩幼稚園 植松 綾香

私が勤めている園は、実習の頃からお世話になっています。その時、先輩方の子どもたちと全力で向き合い、一人ひとりに合わせた声掛けや活動の提供をする姿を見て、私も先生方のような保育者になりたいと思いました。そして現在私は9年目になり、担任としてのクラス運営だけでな

く副主任として保護者支援や後輩指導なども先輩方と共に行い、一人ひとりが高め合えるとても良い関係の中で過ごしています。

本園は、教会付属の園として93年 目を迎え、沼津市内で一番古い幼稚園 となっています。キリスト教保育では、 目には見えない思いやりの心(感謝す る気持ち)を大切にしており、お祈り

から一日が始まります。身の回りの全てに感謝の気持ちをもつこと・素直な気持ちを大切にすること・自分の周りにいる人々を受け入れて愛することを司祭様や先生方が園生活の中で自然に伝えていく様子は、実習生だった私にもストレートに伝わり、保育者となった今も、子どもたちが目

に見えないものへ心を注ぐことができるように一人ひとり と心を通わせています。

現在まで各学年を受け持ちましたが、特に印象に残っているのは初任で受け持った子どもたちを年長で送り出した時のことです。園に流れているあたたかい雰囲気の中で安

心感を持って過ごした子どもたちの成 長、3年間共に過ごしてきた中で結ば れた子どもたちとの強い絆、そして保 護者の方から温かい言葉を頂いた時は 今まで頑張ってきたことが今に繋がっ ていると実感し、さらに次へと向かう 原動力になりました。

近年、保育士・幼稚園教諭不足が深 刻となっていますが、人格形成の基礎

となる幼児期に携わるこの仕事はなくてはならない職業だと思います。子どもたちからの「先生大好き!」という真っすぐな気持ちは私の支えであり、宝物です。これからも保育という仕事に誇りを持って過ごしていきたいと思います。



#### 魅力ある子どもたちの中で大切にしたいこと

#### くるみ幼稚園 横山 友美

幼稚園に勤めて早いもので18年。大変ではあるけれど、毎日子どもたちの魅力に引き込まれ、自分に良い刺激を与えてくれる、なんてやりがいのある仕事なのだと日々感じています。いろいろな家庭環境の中で生活している子どもたちが園にはいますが、園や保育者は子どもたちにとって

常に心地の良い存在でありたいです。かつて自分が園児だった頃に憧れた、優しい視線ですべてを受け止めてくれ、毎日のようにドッジボールを一緒に楽しんでくれた先生のように、子どもの心に寄り添って物事を考えられる保育者であり続けたいと思っています。

コロナ禍の今は、園生活において制 限が多く、活動においても以前とは違

うのが現状です。しかし私たちは、人との関わりを通して 大きく成長するという幼児期の特性を重く受け止め、その 機会を欠くことのないように、日々の保育を試行錯誤して 行っていきたいです。 二学期は、運動会や発表会という、くるみ幼稚園にとって大きな行事があります。行事当日には、子どもたちの堂々とキラキラした姿が随所に見られ、涙があふれてきてしまいます。それが何故なのかと考えると、子どもたち一人ひとりが行事への取組みを純粋に頑張っていて、さらにその

中で友だちと心を通わせるなど、当日 を迎えるまでの日々がとても充実して いたからなのでしょう。どんな時も結 果に目を向けるだけでなく、そこまで の過程を大切にしたいものです。

"子どもが大好き"でスタートした保育者人生ですが、子どものことを深く知れば知る程に面白さが増し、自分にできることを追求したくなる毎日です。

子どもたちが、自分のことを大切に、自分が大好きと思える、 そして相手を受け入れていつも心が満足な状態でいられる よう、私はこの先も子どもと心を通わせる保育を行ってい きたいです。



## もの想い

#### 子育では親育で

認定こども園東海大学付属静岡翔洋幼稚園 PTA 会長 小林 早耶香

我が家には小学二年生の長女・年中組の次女がいます。揃って東海大学付属静岡翔洋幼稚園にお世話になっています。『感動は、体験から』という理念で、家庭ではできないたくさんの経験・体験をさせてもらい、ありがたい限りです。

『憂きことのなほこの上に積もれかし限りある身の力ためさん』という儒学者の熊沢蕃山の言葉を、最近知りました。『悩み事よ、来るなら来い。自分の力には限りがあるが負けずに精一杯がんばるぞ!』という意味だそうです。

私にとって子育ての『憂きこと』は二つあります。 一つは「待つこと」もう一つは「アイディアを出すこと」 です。

一つ目の「待つこと」というのは、子どもが自らの力でできるようになるまで待つことです。どうしても、早く・効率的にと思ってしまうところがあります。「パパがお休みの日だと、ママがにこにこしていて嬉しい」と言われたことがありました。正直ドキリとしました。

何時までに○○させなければと、「なければいけない」 思いで時間に追われがちです。

二つ目の「アイディアを出すこと」というのは、個に合った方法などを提案することです。アニミズムが強い我が子は、購入したものに限らず作製したものも中々手放すことができません。色々な方法を考え試しましたが上手くいきませんでした。そこで園での声かけを教えてもらい自宅でも試したところ、手放すことができました。先生方、祖父母、ママ友・パパ友達等、私たち両親以外の知恵やアイディアをもらいながら子育てしようと強く思った出来事でした。

私たち夫婦は普段我が子に年齢を聞かれると、「あなたのママ (パパ) になって○歳だよ」と答えることが多いです。『憂きこと』への対抗策として、できたことを見つけることに時間をたっぷり使うこと、家族・地

域のたまない。できまれてをとよい。でも、できまれて、できまれて、できまれて、できまれていますが、できまれた。というできまれた。





#### モンテッソーリ教育を受けて

藤枝聖母幼稚園父母の会会長 小泉 昌弘

我が家には小学校五年生の長男、三年生の次男、年 長の三男がいます。男子三人の元気が有り余った生活 を送り、自宅の壁には、その痕跡が随所に残っています。 この息子たちが満三歳よりお世話になっているのが、 藤枝聖母幼稚園です。昭和二十六年に開園された、歴 史ある幼稚園で幼児期の子どもの成長を促すモンテッ ソーリ教育を取り入れ、先生方のご指導のもと、息子 たちの成長を助けていただきました。

長男は年少の頃に、物事の切り替えが苦手で集団行動ができず、親として小学校などの集団生活を考えると不安でたまりませんでしたが、「何か一つのことに集中して取り組めるのは、すばらしいこと。この子のそういうところを伸ばしていきましょう」と先生におっしゃっていただいた時、胸のつかえが取れたように感じました。担任の先生が息子の良い所をたくさん見つけてクラスの友達に紹介し続けてくれたことにより、年中あたりから集団行動ができるようになりました。

次男は恥ずかしがり屋で率先して何かをするのが苦 手でしたが、藤枝駅イルミネーションの点灯式の代表 を務めることをきっかけに自信がつき、活発になった ように思います。

三男は甘えん坊ですが、園ではクラスのリーダーとして頑張っているようです。二人の兄と同じように三男もモンテッソーリ(お仕事)が好きで、今は世界・日本の地図作りに取り組んでいます。

同じように育てても、三兄弟それぞれに性格が違い、好き嫌いも違いますが、「やってみたい」「知りたい」と、いろんなことに興味を持ち、コロナ禍でおうち時間が増えてもそれぞれに一つのことにじっくり取り組む姿が増え、親としてとても嬉しいです。

現在でも、長男と次男は園の遊戯室を借りて活動しているコスモスポーツクラブを通じて園との関わりを持ち続けています。

親としてコロナ禍でも、できることを考えて子ども たちの成長を促す仕掛けを工夫していきたいと思いま す。



#### 安岡 知子

株式会社福祉総研



厚生労働省発表の出生数は、2019年の「86万ショック」 【表2】(仮) 3・4・5歳児クラスの子ども数 の86.5万人から、2020年は84万人へと減少し、さらに 2021年は、コロナ禍が拍車をかけ80万人を割り込むと いう予想がされており、少子化が10年前倒しで進む危機 的な状況となっています。

静岡県も例外ではありません。静岡県の出生数は2015 年 28,352 人、2016 年 27,652 人、2017 年 26,261 人、 2018年25.192人、2019年23.457人、2020年22.497 人でした。

5年間で5,855人減少しています。

この減少数がどれほどのインパクトをもって皆様の園に 影響をするのか、をお話します。

まず、国の資料『保育園・幼稚園等の年齢別利用者数及 び割合(令和元年度)』を確認していきます。3歳、4歳、 5歳の年齢人口に対する、①保育園児②幼稚園児③幼保連 携型認定こども園児を合算した人数の割合を就園率と考え ますと、3歳児は95%、4歳児と5歳児は100%です。 ①②③には企業主導型保育事業、無認可保育施設が除外さ れていること、また 2019 年 10 月以降の無償化も考慮し ますと、3歳児、4歳児、5歳児の就園率はほぼ100%と言っ てよいでしょう。そして、3歳、4歳、5歳の年齢人□≒ 園に通う子どもの数と考えることができます。

2021年度の3歳、4歳、5歳児クラスの子どもは【表1】 のとおりです。2021年度の3歳児クラスが2022年度の 4歳児クラスに、2022年度の4歳児クラスが2023年度 の5歳児クラスにと持ち上がっていきます。

【表1】3歳、4歳、5歳児クラスの子ども

クラス	2021 年度	2022年度	2023年度	2024 年度
5歳児	2015.4.2 ~	2016.4.2 ~	2017.4.2 ~	2018.4.2 ~
	2016.4.1 生	2017.4.1 生	2018.4.1 生	2019.4.1 生
4歳児	2016.4.2 ~	2017.4.2 ~	2018.4.2 ~	2019.4.2 ~
	2017.4.1 生	2018.4.1 生	2019.4.1 生	2020.4.1 生
3歳児	2017.4.2 ~	2018.4.2 ~	2019.4.2 ~	2020.4.2 ~
	2018.4.1 生	2019.4.1 生	2020.4.1 生	2021.4.1 生

クラス	2021 年度	2022年度	2023 年度	2024 年度
5歳児	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
	出生数	出生数	出生数	出生数
4歳児	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
	出生数	出生数	出生数	出生数
3歳児	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
	出生数	出生数	出生数	出生数

厚労省が発表する出生数は、毎年1月1日から12月31 日の期間が対象ですから、園のクラスの子どもとは3ケ月 のズレがあります。ここからは、年と年度のズレをご了承 いただいた上でお読みいただければと思います。【表2】 のように3歳、4歳、5歳児クラスの子どもを、仮に厚労 省の出生数として考えた場合、静岡県の出生数を使って 2021年度から3年後の2024年度の3歳、4歳、5歳児 クラスの子ども数を表にしました。

【表3】

出生数		2021年	2022年	2023年	2024年
2015年	28,352	28,352			
2016年	27,652	27,652	27,652		
2017年	26,261	26,261	26,261	26,261	
2018年	25,192		25,192	25,192	25,192
2019年	23,457			23,457	23,457
2020年	22,497				22,497
3・4・5歳クラス		82,265	79,105	74,910	71,146

3年後の2024年度は、13.5%減、11.119人減です。 計算上では、100人規模の園が静岡県内で111園も無く なるということです。この数字をみて驚いたのではないで しょうか。皆様が危機感をもって我が園の事として考えて いただけるのではないかと思います。

弊社では、3年前からこの考え方による3年後(今となっ ては 2021 年度) の 3 歳、 4 歳、 5 歳児クラスの子ども数 の減少率、減少数を訴えてきました。

3年前当時は、待機児童対策もあって保育所、認定こど も園、小規模、企業主導型等がバンバン新設されていました。 しかし、3年前とは様子が変わった2021年の保育業界。次 回は保育業界を取り巻く現在の状況についてお伝えします。

















編集後記

新型コロナウイルスが蔓延して早数年が経ちまし た。ワクチンの接種も進みつつある中、海外では未 だ猛威を振るい続けていると聞きますが、日本では 終息の兆しが見えてきたように感じます。今までごくごく当たり前に行えていた教育活動や振興協会で の活動も、活動時期の感染状況を踏まえ、各園の園 長先生方をはじめ協会にかかわる方々の多くが苦慮

し、変更せざるを得なかったことも多かった事と感 じます。今回、第193号静私幼だよりに寄稿をお 寄せいただいた皆様、編集に携わって下さった先生 方もお忙しいところ誠にありがとうございました。 子どもたちと元気いっぱいにふれあい、活動できる 日常に、一日も早く戻りたいものですね。

蜆塚幼稚園 加藤 寛頼

シャポン 玉とんだ♪

